

# 「幼児の健康な心と体づくり」

日時：平成26年6月3日（火）  
場所：コカ・コーラウエストパーク

◆ 研修講師 中部教育局 指導主事 小田 晴子 氏

## 【ねらい】

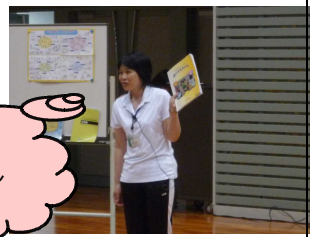
幼児が楽しく基礎的な動きを身に付け、体力を高める指導について学ぶとともに、家庭での生活習慣づくりの支援の在り方について理解を図る。

## 【研修の様子】

1 講師による講義（レジメ、鳥取県幼児教育振興プログラム P23,24 参照）

- 幼児期の運動発達の特徴
  - ① 基本的な動きの習得（動きの多様化）  
→ 歩く、走る、打つ、跳ぶなど多様な動きができるようになる。【量】
  - ② 基本的な動きの洗練（動きの洗練化）  
→ 動きが上手になる。【質】
- 基本的な動きは、80種類以上
- 多様な動きとは
  - ① レパートリーの多様さ（いろいろな種類の動きを幅広く）
  - ② バリエーションの多様さ（基本的な動きの変化）
- 多様な動きを経験させるための指導と環境の工夫
  - ① 自由度（選択肢）のある環境
  - ② 遊びの変化や発展  
人数・空間・図形を変えて

ポイントは、レパートリーバリエーション自由度



## 2 実技

- 鬼ごっこ
  - ねこねこ（向かい合わせで、サークルで）
  - ねずみ氷鬼（レンジでチン）、林鬼
- 新聞紙を使って
  - 新聞紙をお腹にくっつけて走る
  - 立ち幅跳び長くちぎって走る
  - 丸めて投げる 的当て
  - 輪、槍を作って輪投げ

前後や横、曲線など多様な動きの鬼ごっこ



新聞紙を使って投げる・跳ぶ・走る等



## 【参加者の感想】

- ・ 狭い場所でもできる鬼ごっこがとても参考になった。
- ・ どのような動きを経験させたいかによって、遊びの内容を工夫していくことの大切さが分かった。
- ・ 普段の遊びを少し工夫するだけで、バリエーションが広がることが分かった。
- ・ 保育士の声かけや環境の工夫次第で、動きが多様化することができるということが分かった。
- ・ 「できる」「できない」ではなく、一人一人の子が「楽しかった」と思えるような運動経験を重ねられるよう保育をしていきたい。
- ・ 基本的な動きは80種類以上ある中で、普段よくなる見られる動きと意識しないとできない動きがあることを学んだ。子どもたちに、遊びの中で、楽しみながらたくさんの動きを経験させたい。

実際に体を動かして、楽しみながら運動遊びを体験しました

